

特に、先輩の皆さんからの貴重なお話、資料を若い皆さんに伝えたい、そしてまた、在校生を含む若い後輩の皆さんと親しくふれあい、同窓会が皆さんに親しまれ、楽しみにしていただけるような会になりますよう、役員一同、心を寄せ合って取り組んでまいります。



そして、今、不要不急の外出は控え、と言われるこの状況の中にあつて、果たして2022年6月の「つゆ草の集い」をどのような形で開催できるのか、みんな迷いながらも、その準備を進めているところです。皆さまと親しくお会いして、懐かしい先生や友との再会を喜び合える日となりますよう、心から願っています。皆々様のご健勝をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

附属桃山中学校同窓会会員の皆さま、いかがお過ごしでしょうか？ 私は、2018年11月の評議員会にて、前会長 瓦谷さんから、会長のお役を引き継ぐことになりました。16期生の水谷孝子と申します。どうぞよろしくお願いたします。理事会、評議員会の更なる活性化と親睦を深め、同窓会の発展に少しでもお役に立てることができれば、幸いです。今期は、理事会の役割分担を明確にして、年齢を越えた同窓生のつながりを深めたいと、「広がる輪」を共通の願いとして、同窓会運営をスタートいたしました。



水谷 孝子

会長挨拶



第 19 号
 京 都 教 育 大 学 校
 附 属 桃 山 中 学 校
 同 窓 会 会 報
 発行人 会長 水谷孝子
 京都市伏見区桃山井伊掃部東町16
 E-mail:
 fumomocuyudoso@gmail.com

2019年3月には、母校が創立70周年を迎え、校舎の改築が行われました。それに併せて、母校が念願とされていた、校名の英語表記校銘板の設置について、会員の皆さまからお寄せいただいたご寄付を元に、同窓会より100万円の寄付をさせていただきました、実現できましたこと、とても意義深い記念事業になったと感謝しています。ありがとうございます。

また、母校との連携事業として、2020年度より、秋の文化祭での展示・交流を計画しました。と言っても、このコロナ禍のため、学校の文化祭も例年のようにできない中、展示とアンケートによる意見交換という形での開催となりました。母校創立以来の校舎の変遷や学校周辺の移り変わり、学校生活の思い出などをテーマにしましたが、皆さんがたいへん興味をもってくださり、今後を楽しみにしているとの声もいただき、来年の文化祭を今から楽しみにしているところです。

「つゆ草の集い」をどのような形で開催できるのか、みんな迷いながらも、その準備を進めているところです。皆さまと親しくお会いして、懐かしい先生や友との再会を喜び合える日となりますよう、心から願っています。皆々様のご健勝をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

第16回 つゆ草の集い

京都教育大学附属桃山中学校 同窓会総会

HELLO EVERYBODY

■とき

2022年6月12日(日)
 11:00 受付開始
 11:30 記念撮影
 12:00 開会
 14:30 閉会予定

■ところ

ホテルグランヴィア京都
 〒600-8216 京都駅ビル
 TEL 075-344-8888

■会費

社会人 10,000円
 (1期~10期 5,000円)
 大学生 3,000円
 高校生 1,000円



※出欠のお返事は同封葉書にて5月7日(土)までをお願いします。
 (注) 出席のお返事を頂きながら、当日ご欠席されました際には、会費をご負担いただく場合がありますので、何卒ご了承ください。

コロナ禍がまだまだ気がかりな昨今、同期生のみんなはどうしているかなあ、先輩の皆さんはお元気かなあ、高校生、大学生のみんなの学校生活はどんななのかなあ、子育てしている皆さんは、いろいろ心配だろうなあ、医療現場を始め、いろいろな仕事で毎日奮闘している皆さんは、どんな毎日を送っておられるのだろう、会いたいなあ、いつものようにみんなで集まって話したいなあ、そんな気持ちを抱えて、祈るように同窓会「つゆ草の集い」の準備をしています。

昨年開催予定だった「つゆ草の集い」、1年延期しての第16回です。今回は、そんな皆さんの気持ちを、**ビデオメッセージ**に込めて、お送りいたします。

ホテルでの開催が難しい場合は、オンライン開催を準備しています。**5月15日**に、最終のご案内を、メールにてお送りいたしますので、ご出席の皆さまは、返信葉書に必ず**メールアドレス**をご記入ください。

同窓会ホームページにてもご案内いたしますので、会報最終ページにありますQRコードを読み取っていただき、折々にご覧ください。

皆さまのご健勝を心から祈念しております。

会長 水谷 孝子

皆様の多数のご参加を心よりお待ち申し上げます。

中学校から

同窓会の皆様へ

前副校長 佐々木 稔

今年もまた、校内に咲き誇る桜が青空に映え、本校の四季の中でも最も美しい季節が巡ってきました。同窓会員の皆様におかれましてはますますご健勝にてお過ごしのことと存じます。平素より本校教育の推進にご協力、ご支援を賜りまして厚くお礼申し上げます。

輝く校銘板(同窓会より寄贈)に迎えられて(お礼)

南校舎の全面改修工事の完了(2019年3月)を機に、同窓会様よりいただきました寄付金をもとに、校舎西面の壁に本校の校章と校名を記した「校銘板」(アルミ製切



り文字)を取り付けさせていただきました。金属で切り抜かれた校章と文字板は日の光を浴びて輝き、生徒たちは登校するたびにその輝きを見て本校生徒である誇りを感じ取ってくれていることと思います。改めまして、同窓会役員の方々をはじめ同窓会員の皆様にも厚くお礼を申し上げます。

学び続ける附属学校をめざして 〜豊かで確かな学び、 そして「深い学び」を〜

本校では、これまでの桃山地区三校園による幼小中連携教育研究に加えて、2015年度より本校独自の研究テーマを掲げて実践に取り組み、毎年研究発表会を開催し、京都地域をはじめ全校の教育関係者に研究の成果を発信しています。ここでは、近年の研究活動の概要について紹介しましょう。

2019年度には、「深い学びを生み出す授業と授業づくりの研究」をテーマに教育研究発表会(11月)を開催し、全国より約460名の教育関係者が参加しました。本校がこれからの新しい時代に必要とされる「資質・能力」としての「学びに向かう力」の育成に着目し、その源泉となる「深い学び」が生み出される授業づくりに向けた取組や、「学び続ける学校」としての持続的な授業研究のあり方について全教員で認識を共有しながら実践を進めてきた成果を発表しました。また公開授業では、「生徒が立ち向かうべき未知の状況」として学習課題を設定し、その解決に向けて生徒たちが、仲間と主体的に協働的に関わりながら学びあえる授業を提案しました。



そして、2020年度には、感染症拡大防止の観点から公開研究発表会は中止となりましたが、これまでの授業研究を継続するべく、「熟考をともなう判断」によって生み出す深い学びの研究」をテーマに、6月から11月にかけて全教科で全教員による公開授業と研究協議会を行いました。本校では、授業づくりの視点として、授業

内の学習過程に「熟考をともなう判断」を必要とする課題を意図的に組み込み、生徒たちが仲間と協働して課題解決を図る過程において「深い学び」が必然的に生み出されると考えています。そして現在、その課題設定のあり方や授業実践の中で見えてくる生徒の学びの姿の見取りや評価のあり方についても継続的に研究を進めているところです。

本学の先生方からの指導助言はもとより、昨年度より継続的に指導いただいている佐藤学氏(東京大学名誉教授 学習院大学特任教授)をお招きし、すべての授業を参観していただき、今後の授業づくりに向けて多くの指摘や激励の言葉をいただいています。

今後も、附属桃山中学校は研究の成果を広く地域に発信し、地域や外



部からの意見や評価を糧に、さらなる授業研究に努め、地域全体の教育力向上に貢献できる、魅力あふれる附属学校をめざしたいと考えています。

「人・いのち」を大切に 育むための多彩で豊かな学び

本校の性教育として、1年生では、京都府助産師会より講師をお招きし、いのちの誕生を科学的にとらえ、その尊さを学ぶと共に、ももやま児童館より赤ちゃんとお母さんを多数お招きして、母親としての思いや赤ちゃんの温もりを感じ、本物の「いのち」を実感する学習を行っています。また2年生では、多様な性への理解学習として当事者の方を講師としてお招きし、性的マイノリティなどの性について正しい認識のあり方を学び、性別にこだわらない、各自が「自分らしく生きる」ことの大切さを学んでいます。

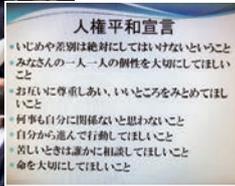
また、人権教育及び国際理解教育においては、外国籍の立場で日本で活躍する方々等を講師としてお招きして、差別の問題や異文化理解、多文化共生への考え方について学ん



います。さらに、生徒会主催の人権平和集会(12月)では、生徒会本部から「人権平和宣言」が提案され、いじめ問題の克服を呼びかけると共に、生徒会や各学年での人権・平和に関わる取組や帰国生徒学級の取組を交流し、一人一人の「いのち」や人権を大切にすることをめざしています。このように附属桃山



中学校の生徒たちは、落ち着いた環境の中で豊かに学び、今日



も「豊かな感性・輝く個性・拡がる共生」を合言葉に、元気に明るく人懐こく、本校ならではの充実した中学校生活を存分に楽しんでいきます。最後になりましたが、教職員一同、同窓会のみならずのご発展を桃山の陵よりお祈り申し上げます。今後とも本校の教育活動の発展のためにご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

※この寄稿文は、2021年1月に寄稿されたものを掲載しています。
追記

私事で大変恐縮ですが、この3月末を持ちまして定年退職となりました。同窓会長様をはじめ役員の皆様、そして、この伝統ある本校の同窓会員の皆様には大変お世話になりました。この紙面をお借りして心よりお礼申し上げます。

この4月より、私の後任として、秋山雅文先生が副校長に就任されましたので、お知らせいたします。今後とも、本校のために皆様の一層のご支援、ご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

「思い出アルバム（校舎の移り変わり）」のパネル展示

田村 直樹（22期）



令和2年の秋に「つゆ草同窓会」として「思い出アルバム（校舎の移り変わり）」のパネル展示を中学校にて実施させていただきました。こ

れは、同窓会活動と中学校との連携をより深めることを視野に入れた試みです。

「校舎」というテーマで当時の写真と有志の方々の協力を得て書いていただいた思い出をポスターという形で展示させていただきました。写真1でご覧いただけるように多くの在校生の方に興味を持って見ていただけただけです。

24名の在校生の方が自主的にアンケートに記入し、21名の方が興味を持ったとの答えでした。そして、そのほとんどが「卒業生と一緒に附桃中の歴史を調べてみたい」と答えています。また、テーマとして「校舎以外に「制服」、「部活」・・・を知りたい」という声も出ています。このように、多くの在校生の方も興味を持っておられることが分かり、附桃中の歴史を目に見える「もの」として残しておくことの重要性を再認識するとともに、それを実行するのが同窓会の義務だと感じました。さらに、2021年秋にも同様のパネル展示を行うことができました。

同窓会には附桃中の歴史を語ることでできる方々以外にも、高い専門性を持った卒業生が多くおられ、幅広い分野において見識をお持ちの方がおられます。同窓会を貴重な人材の宝庫として、在校生との幅広い接点を創ることも可能だと思えます。

このように同窓会の単独活動だけではなく、可能な範囲で在校生の皆さんや先生方とも連携しながら進められないかなどと考えています。例えば、夏休みの活動やMET（Momoyama Explorers' Time：学年の枠をはずし主体的に課題解決型の学習を展開する活動）を通じて、附桃中創設時のお話を先輩から

伺い、それを整理するところから始められるのではないかと、などです。この活動をするにあたって、佐々木稔副校長から多大なご支援、ご配慮をいただき、嬉しく心から感謝しております。また、創立期の附桃中の様子を知るために、恩師の種村裕佑先生に連絡を取ったところ、大変お元気そうなご返事をいただきました。大変嬉しかったのと同時に、もっと恩師や年次の近かった方々と気楽に連絡を取り合える仕組みがあればと感じました。



（パネル展示で話題を提供していただいた方々） 3期 袋布照子、扇子豊、荻野紀子、8期 伊吹興一朗、16期 水谷孝子、山名光、17期中川陽之助、21期 瓦谷泰浩、22期 野田明子、田中真須美、田村直樹、33期 小林裕直、37期 奥山智緒
※この原稿は2020年12月に作成した原稿に加筆修正したものです

同窓会寄稿

記憶の彼方から



京都大学 理学研究科 教授 佐々木 豊（28期）

生来物覚えが悪く、暗記科目が超苦手なところか、数年前の出来事すらろくすっぽ思いつくことができない。楽しそうに以前の出来事について話し合う級友たちを前に、自分はそのような変わった奴なんだと思いつつだまに、青少年時代を過ごした。附桃中を卒業し、附高、京都大学、大学院と学歴を重ね、国外にて職歴を重ねてから母校に舞い戻り大学教員となった壮年期に至るまで、ずっとそんな調子で暮らしてきた。同窓会などの席で楽しそうに思い出を語り合う級友たちを前に、なんで自分だ

け忘れてしまっているのだろうかという質問に答えることもあった。そんな失われたつもりであった過去の記憶が、この数年ばかり、突然なんの前触れもなく記憶の底から蘇ってくることに我ながら驚いている。なんてことはない、さっさと忘れてしまっていたのではなく、日々目の前に押し寄せてくる新しい出来事の刺激に押され、記憶の川上まで押し戻されて顔を見せなかっただけだったのだ。目下のところ一番のお気に入り思い出し、授業の間の休み時間になるとまるでスイッチが入ったように集まってプロレスごっこをしていくことである。還暦を目の前にした今は、今度は何を思い出すのだろうかと多少ワクワクしつつ、以前より刺激が少なくなってしまう日々を過ごしていることになる。これから二巡目に入る人生に向け、思い出の洪水に押し流される日々とならぬよう、新たな刺激を追い求めねばならない。

千歳の山河



竹中 徹男（34期）

私は幼稚園より、中学まで附属学校に在籍しており、その間、ほぼ同

じメンバーと、まるで兄弟のように
過ごしました。遠慮のないのに、嫌味
もなく言いたい放題。掴み合いの喧
嘩をしたと思ったら、すぐに仲直り
するような、不思議な付き合いであ
ったと思います。それが、思春期の
中学校では少し様子が変わり、少し
よそよそしい雰囲気も。それもクラ
ブ活動や、文化祭などを経て、やは
り兄弟のように、そして今でもその
関係が続いている。これこそが附属
学校の醍醐味ではないかと思いま
す。私の中学校での苦い思い出は音
楽です。子供の頃からおたまじゃく
し(♪)が苦手でしたが、一年に上
がってすぐバイエルが授業に。なん
と過酷な授業であったかは皆様のこ
想像通り。奥谷先生には本当にお世
話になりました(笑)。体育館で、
奥谷先生美声「ソ・ミ・ド」から無
伴奏で校歌を歌ったことは今でも鮮
明に覚えています。「千歳の山河見
下ろして 桃山の丘」と懐かしく。
※2020年12月に寄稿された文章
となります。

世代を超えて



桐村 慶一 (45期)

「附属」の出身者は、実におもしろい。
なぜならば、「突き抜けている」

からです。いろんな部分で才能や個性、人間性が「突き抜けている」方が多いこと、私は年を重ねることに感じます。

私は、現在44歳。元氣は取柄で、一児の父、一般企業で営業マンやっています。元氣の原点は、「附属」の仲間との繋がりといいても過言ではありません。毎年、何度か仲間と飲み交わすのが楽しみの一つです。

附属桃山中学校は、今まで74期の卒業生を輩出しています。私は、同窓会の役割を通じて、幅広い世代の方とお会いしてきました。本当にみなさん、生き生きとされていて「突き抜けている」何かを持っておられます。

たったの3年間の中学校生活。なのに、なぜこんなに長くも「附属」のみなさんと繋がっていきけるのか? 「学校が好き」、「仲間が好き」、人それぞれあると思います。これは、みなさんが同じ学び舎で苦楽を共にし、一生懸命「突き抜けた」からだと思えます。しかも人格の貴重な時期に。そして、代々受け継いでくださった、学校環境のよさがあったからでしょう。

私の亡き祖母は、「附属」の大先輩。前身の「女子師範」の出身です。兄と私、二人とも入学できた時には、心から喜んでくれたのを覚えております。きっと、この「附属」ならではのよさをわかってくれていたからでしょう。

現役のみなさん、今、学校生活楽しんでますか?

私が言うのもなんですが、勉強、スポーツ、恋愛、遊び、興味あることたくさん楽しんで「突き抜けて」ください。たまには失敗もして、しくじってください。後のちに「笑い」

にできれば、OKだと思います。今の思いや経験は、何年たっても仲間と共有し、共感しあっていくことでしょう。時には世代を超えて繋がっていくこと、おもしろくてたまらないかもしれません。

※2020年12月に寄稿された文章となります。

どこの数学者の ような手口



藪垣 将 (51期)

藪垣 将 (51期)

2020年の10月末に、今あなたが一覧になっている同窓会誌への寄稿文の依頼があった。私に役に立つのならと快諾した。執筆は私の趣味の一つだ。無償だったが、問題はない。

かくして私は、それはそれはたいへん面白い文章を書きあげた。まさに、最高の噴飯ものであった。が、COVID-19の影響で、会誌の発行が延期となった。それから一年が過ぎ、改めて寄稿文の依頼をいただいて、私はこの駄文を書いている——もちろん、無償だ。

前に書いた文章を載せてもらうことも出来たのだが、そちらはお蔵入りとした。「別に書くことはないよ」という少々ふざけた内容のそれは、コロナ禍に対して思うところがある今の私にはそぐわなくなった。

COVID-19は変異を重ねつつ、2022年の今なお、我々の生活に大きな影響を及ぼしている。暮らした様相は、以前とはまったく異なりました。慶事を対面で報告出来ない淋しさ。身内の死に立ち会えない哀しみ。家にこもることで増加した、家族と過ごす時間——これは嬉しい人も辛い人もいろいろだ。傷つきや喪失を経験しながら、いつ落ち着くとも知れない苦難の下で、知恵と工夫を頼りに我々は生きている。

翻って、気づかれることなく失われていったものもある。それらへ思いを馳せることを、忘れないようにしたい。例えば、目の目を見ることがなく、闇から闇へと葬られてしまった私の文章。あなたはその存在さえ知らなかったはずだ。そしてこの先決してあなたの目に触れることはない。あんなに面白い文章だったのに。

思い出



矢野 花歩 (71期)

しまうだろう、と一抹の不安を覚えるくらいだ。
何より中学と比べて環境も自分自身も変わっていった。勉強と部活に忙殺される毎日で、友達はもちろん物凄く優しく、私もあまり感情を表に出さなくなった。一言で言えば、楽しく充実した高校生活ではあるが、誰かと正面からぶつかることはなくなった。中学でぶつかり尽くしたのかも知れない。
あれほどまでに、感情のレパートリーをフル活用する時期なんて、これから絶対ないだろうと思う。良かった、もうあんな激しい一喜一憂をしないで済む、と思う一方で、あの時の私が羨ましい。
忘れていく。大切なものも、過ぎ去ったものも、私たちは気付かない程度に少しずつ忘れていく。このたった17年間の人生で、私が忘れたくないものは多分、中学時代の躍動する感情なのだ。あの頃の青い痛みや、突き抜けるような喜びに、一生懸命追いついてきた自分を忘れたくない。
思い出は寂しいけれど、ずっと生き続けている。思い出に体温があるうちは、変わりゆく社会の中でも、私は私を変えないでいられると思つた。
※2020年12月に寄稿された文章となります。

中学時代を「思い出す」ことが多くなった。ついこの間まで、中学は私にとっての現在地だったのが、もうすっかり過去になってしまった。思い出は、遠ざかる程に寂しくなっていく。たったの2年で寂しいのだから、これから先どうなっ



同期会便り

記憶の彼方から

我々昭和30年中学卒業生は今年80歳になる。令和元年11月15日（金）12時何時もTVで映る昔からある四条大橋河畔 東華菜館で総会を開催した。みしな会員は附属小学校卒も含めるので現在88名、うち30名の出席（出席率34%）、連絡不要4名、返信なし11名で返信者は73名であった。群馬県、横浜市からの参加者もあった。先日亡くなった毛戸節男君への黙祷後開会。連れ合いをなくしたからと本当に久しぶりに参加する者も何人かいた。まだ働いている者もあり、ま、そこそこ健康で時間的余裕のある者が集まったわけだ。車の運転免許返上者も何人かおり、筆者も来春廃車を検討しているが、パスがメチャ減っており免許返上したら何もできないという者もいて、本件はひとしきり話題になった。二次会は東華菜館の四条大橋の対各線上にある菊水ビルの2階でコーヒなど。全員一言は近況をしゃべったがすぐに酔いが回ったせいか記憶がない。昔を思い出すと今より今生きていることを確認しているというところとか。来年また集まりましょうという事で散会。次回からも中坊敬君が幹事長をやっていただけを確認している。

元気に働いている人もいる反面、代筆の返信3通、老人ホーム入所者、歩行器使用者、階段落ちてリハビリ中（階段は我々要注意）、その他体調が悪くて出席不可の者数名など寄る年波には勝てないことを伺わせる。みな一病は抱えながら、今を楽しんで前を向いて行こうということだろう！

この会当分維持できることを確信した一日であった。

留岡 寛記（7期）



第10期 同窓会（2回開催）

第10期卒業のいちまる会、2019年10月5日、京都御苑・御所を訪ね、隣接の御所西京都平安ホテルで喜寿の集いを催し32名が秋の京都で楽しい一日を過ごしました。喜寿の年までいちまる会を続けてこられたことをお祝いするとともに、傘寿に向けて、今後も皆な元気でお会いできることを誓い合う集いとなりました。



りました。同窓生による踊りや歌の演奏、幹事一同の寸劇などで交流、近況等もこもこも語られました。「笑点」流に「77歳でお迎えが来た時は、「せくな老後これからよ」に続けて「寄せられた一言です。」平均年齢伸ばしたい」「ドクターめざして勉強中の孫の成功した姿をみるまではお迎えにくるな」「自然のままに、でも生きている限りは健康でいたい」「迎えが来るまで元気でのおんびり暮らしたい」「ピンピンコロリといきたいな」「もう来ましたか天国行？、それとも地獄行？」「人生100年時代後30歳は元気で仕事が出来ればと思っているが」「当年（十年）とって、まだ67歳！まだまだ若い！」「八十歳までは、晴耕雨読を続けるぞ!!」「米寿のときに会いましょう」



最後は、カラオケルームで2次会。懐かしの歌などを歌い、明日への英気を養う1日となりました。松尾 佳和（10期）

附属桃山中学校を1958年（S33）に卒業した私たち10期生は、卒業60周年を記念して、2018年11月に同期会を開催しました。実は、十年前の2008年にも、卒業50周年の記念同期会を開催していました。中学では56人のクラスが二つ、112人が同期会（いちまる会）のメンバーでした。2008年までに12名の方が鬼籍に入っておられましたが、大津市浜大津の琵琶湖プリンス・ホテルで開催した50周年記念同期会には、ほぼ半数の49名の方々が参加して下さいました。それから10年。さらに16名の方がお亡くなりになり、84名が現役のメンバーとなりました。60周年記念同期会は、日帰りの参加が可能とな

第16期 70歳お祝い同窓会

るように、10日土曜日の昼に、伏見・桃山の老舗料亭、魚三樓で開催しました（十石舟乗船、二次会は黄桜カッパカントリー）。半数に近い38名の方々がお集まり下さいました。記念事業の同期会としては、大盛会であったと思います。ところで、附属桃山小学校に在籍中に、附属京都小学校などの他校に転校していかれた同窓生が、少なからずおられます。そのうちの4名の方の消息が判りましたので同期会のご案内を差し上げたところ、3名の方が記念同期会になつかしいお顔を現して下さいました。盛会の記念同期会に華を添えて下さったのです。幸せなひとときでした。瀬戸口 烈司（10期）

今回、70歳、古希と言われる年齢に達した私たちは、平成31年3月8日に、京都サウザンドホテルにおいて、「附属桃山小学校43期・附属桃山中学校16期ジョイント同窓会・70歳お祝い同窓会」を開催しました。還暦記念に琵琶湖ホテルで再会してから10年！ 仕事や生活にいろいろな変化があった、この10年間だったと思います。皆さんにお会いして、お互いの健康、健康を喜び合い、またこれからの10年に向けて、知恵を寄せ合ったり、夢を語り合ったりできたら、どんなに嬉しいことかと、幹事一同、思いを一つに準備しました。当日は、遠方から、また、ご夫婦揃っての参加もあり、いつも増していきやかな、和気あいあいとした一日になりました。二次会、三次会と皆さんの思いは尽きず、夕食を終

えてやっつと、またの再会を約束して三次会を閉じました。ご参加の皆さま、おたよりを送ってくださった皆さま、ありがとうございます。ございました。

水谷孝子(16期)



第66期 成人記念同期会

今回は66期の成人の祝いも兼ねて、成人の日の前日である平成31年1月13日(日)に、ホテルグランヴィア京都5階古今の間にて同窓会を開催しました。

当日はキャンセルが1人もなく、それぞれどこか急遽参加者が1人増えました。また4名の先生方(渡辺仁先生、中川竜洋先生、津田優子先生、野上華子先生)にもご臨席賜り盛況となりました。懐かしい恩師や旧友と交わす話は尽きず、豪華なお料理やビンゴ大会を楽しみました。

片岡拓直(第66期)

第20期・21期・22期 野球部OB会



2018年8月11日、京都市内の田ごと本店にて、野球部の同窓会(20期、21期、22期)を、野球部顧問の藤林先生ご夫妻をお招きして開催しました。

今回のOB会は10年ぶり、6月に開催された附属桃山中学校同窓会総会の席で、中学時代のクラブ活動の思い出話で盛り上がり、2回目の開催になりました。関西在住の同級生を中心に、遠方に住む友にも声をかけ、先輩、後輩11名が集まりました。藤林先生からの思い出話や近況を語り合いながら、時には気分は学生時代に限りながら、時には盛り上がり、前期高齢者の仲間入りをして、体に故障を抱えたり、不調を漏らすメンバーもいましたが、次回に集まる

時には変わらず元気な姿で出会えれば、強く感じた集まりでした。

竹村(21期)



第16期 附桃小・桃中 ジョイント同窓会

平成30年6月9日に、ホテル・ハイアットリージェンシー京都で開催された「附属桃山中学校同窓会総会」の後、京都国際会議場ロッジに移動し、お泊り同窓会をしました。夕方、みんな夜飲み物、軽食の買い出しをして、宿泊先「国際会議場ロッジ」の一部屋に集まって、夜食パーティーをしました。そして、宿泊料金の安さと心地よさに大満足して眠りにつきました。

翌朝は、広い庭園をゆっくり散歩して、日本の伝統様式をモチーフとした近代建築の美の様々について解説を聞きながら、見学しました。半世紀を経てなお斬新な、デザインの

数々に感動しました。日本最初の本格的な国際会議場として創設された京都国際会議場は、開館52年目を迎えて、現在ニューホールが完成間近となっています。

そしていよいよ、12時から宴会場スワンにおいて、小学校の恩師、鶴飼拓夫先生をお迎えして、22名が揃い、「附桃小43期・桃中16期ジョイント同窓会」を開催しました。一人一人の近況、活躍ぶりの話を聞き、美しい庭園を眺めながら、穏やかな午後のひと時を過ごすことができました。70歳の誕生日を迎える今年、みんなが70歳になった頃、お祝いの同窓会をしよう、と約束して散会しました。

水谷孝子(16期)



第11期 同窓会

毎年開催している11期生の同窓会、今年は宇治の地にゆかりのあるものが幹事役となり、河畔にある「花

やしき浮舟園」で開催しました。秋に開催するのが恒例になっていたのですが、宇治川沿いの新緑と新茶を是非とも楽しんでいただきたいという思いから、5月29日の開催と相成りました(今年、後期高齢者となる年齢を迎え「一年も空けると参加者が減るかも」との冗談発言も開催を早めた遠因?)。

昼間の開催としたので、東京から日帰りもでき41人の参加となりました。源氏物語の場にもなった宇治の地の紹介も兼ねた新田(旧姓小山)さんの朗読「平安時代の宇治、王朝文化の語り部たち」に始まり、同じ場所での2次会(新茶の玉露と煎茶も楽しみながら)で大いに盛り上がりました。その後、伏見桃山にある吉山勝平先生がこよなく愛した(?)「櫻井(今は居酒屋)」に場を移しての3次会(19人)、そのあとも何処かへ!

来年は、中部地区の方が幹事。朝ドラ「半分、青い」の舞台、岐阜が開催場所となりました。

塩見 哲(11期)



京都教育大学附属桃山中学校同窓会

第15回 つゆ草の集い

2018年6月9日(土)

ハイアットリージェンシー京都にて開催

「第15回つゆ草の集い」(京都教育大学附属桃山中学校同窓会総会)は平成30年6月9日(土)午後4時より、東山七条のハイアットリージェンシー京都において、中学校の原田信一校長先生や杉原和之先生、種村裕佑先生、杉山勉先生をお迎えし、総勢180名の方々の出席を得て開催されました。まず、総会では竹中徹男副会長(31期)の司会のもと、瓦谷泰浩前会長(21期)の挨拶、活動報告、中川陽之助会計担当理事(17期)の会計報告、松井京子監事(2期)の監査報告が行われ、承認されました。

引き続き35期の世界的指揮者である阪哲朗氏による「ドイツの歌劇場と指揮者の日常」と題した講演が行われました。音楽関係の話以外にもヨーロッパでの生活や中学時代の話など楽しい話にみなさん興味深く聞き入りました。出席者全員の記念写真撮影を行った後、午後5時30分より安岡雅子理事(19期)佐原大河理事(56期)の司会進行のもと、原田校長先生のご挨拶、2期の久村哲さんの乾杯のご発声で懇親会がスタート。まず、最初にテーブル毎の記念写真を撮った後、ミニコンサートとして、56期の齋藤奈都美さんによるピアノリサイタルが行われました。ランゲの「花の歌」や山田耕祥の「からたちの花」など美しいピアノの旋律に一同聞き入りました。そしてアンコールとして「乾杯の歌」が演奏され始めますと、飛び入りで15期の横井省吾さんのテノール独唱が加わり、会場大いに盛り上がりました。そして、2期から70期の高校1年生まで世代を超えて歓談の輪が広がりました。楽しい時間はあっという間に過ぎていき、そして阪さんの指揮のもと、齋藤さんのピアノ伴奏で、全員で校歌を歌いました。最後に龍村薫前副会長(20期)の閉会の挨拶と中学校と同窓会の益々の発展を祈念し、一本締めでお開きとなりました。

出席者は3年後の再開を約束し、二次会、三次会へと、京都の街へ消えていきました。

今回は180名というたくさんの方に参加していただきました。特に若い方の参加ということが懸案だったのですが、今回も現役高校生の方が15名とたくさんの方が参加していただきました。本当にありがとうございます。さらに30期40期50期と前回よりは少しは多く参加していただきました。と言ってもまだまだ若い方の参加が少ないので、次回以降、是非とも多くの方が参加していただきますよう、よろしくお願ひします。今回の「つゆ草の集い」の様子はこのホームページに掲載しております。(今回、当日の写真を多く掲載させていただいています。皆様にはご了解を得ているつもりですが、ご都合の悪い写真がありましたら、削除等の処理をしますので、「お問合せ」からご連絡ください。)同期会は楽しいでしょうが、全体同窓会も結構楽しいですよ。そして今回は2期の方が各期の中で最もたくさんのご出席をいただきました。次回以降もまた、お元気な姿を見せていただきますこと祈っております。

ご出席の皆さん、恩師の先生方、原田校長先生、阪さん、齋藤さん、そしてお世話いただきました同窓会役員の方々の皆さま、本当にありがとうございました。
瓦谷前会長記



2018年6月9日 京都教育大学附属桃山中学校同窓会 第15回 つゆ草の集い 於:ハイアットリージェンシー 京都





ホームページのご案内

今回のつゆ草第19号に平成30年6月に開催しました「第15回つゆ草の集い」の様子を掲載させていただきましたが、ホームページにはもっと多くの写真を掲載させていただいておられます。また、今回の「第16回 つゆ草の集い」につきましても、掲載させていただきます。一度も見ただことのない方、是非一度ホームページをご覧くださいようお願いいたします。

ホームページには同窓会活動の報告の他、同期会の開催結果や同窓生の活動や情報などを掲載しております。是非ご覧いただくとともに、同窓生同士の情報交換にも活用していただければと思っております。



掲載する原稿、お待ち申し上げます。

【同窓会役員】令和4年4月1日現在

会長	16期 水谷 孝子	31期 竹中 徹男
副会長	22期 田村 直樹	8期 伊吹興一郎
理事	3期 袋布 照子	13期 安岡 俊爾
	10期 近藤 秀也	17期 中川陽之助
	13期 百々 恵子	19期 森川 順子
	21期 安岡 雅子	22期 田中真須美
	45期 瓦合 泰浩	25期 木村 英樹
	51期 山口 真希	66期 佐原 大河
	56期 齋藤奈都美	65期 松田 一志
監事	10期 辻 絢子	14期 竹村 一志

(編集後記)

春爛漫の好季節となりました。桜の花に心浮き立つこの頃でございますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。さて、2020年から依然続く新型コロナウイルス感染症拡大状況において、皆さまのご生活の中で不便を強いられることも多いかと存じます。1日も早い終息と皆さまのご多幸をお祈りするばかりのこの頃でございます。また、コロナ禍の影響により、昨年実施予定だった同窓会総会の「つゆ草の集い」が今年に延期となりました。この度の「つゆ草 19号」の発刊も、昨年の4月に皆さまにお届けする予定だったところ、「つゆ草の集い」の延期に伴い、2018年発刊以来4年ぶりの発刊となりました。楽しみにして下さっていた同窓生の皆さまには大変ご迷惑とご心配をおかけしましたこと、心よりお詫言申し上げます。

昨年惜しくも延期となってしまいました。「第16回つゆ草の集い」が来る6月12日に開催いたします。「コロナウイルス」の感染拡大状況は予測できません。ただ、皆様と会いたい、そして話したい、そんな気持ちを抱えて行くように準備を進めております。また、ホテルでの実施だけでなく新たなチャレンジとしてオンラインによる配信も計画しております。今だからこそ、出来ることに目を向けて、出来ることを是非皆様と共に進めたいと思っております。日頃お付き合ひのある同期や先輩、後輩の皆様とお誘いの上、是非ご参加いただけますよう、お願い申し上げます。

また、「つゆ草 19号」より、紙面をリニューアルいたしました。以前の1色印刷タイプから4色カラー印刷のA4判中綴じ冊子に変更し、紙面の見やすさ、保存のしやすさにこだわり一新しております。この紙面を通して、皆さまのよき思い出を振り返っていただくこと、普段の生活において新たな気づきや活力を生み出すきっかけになることができれば幸いです。

今回は、佐々木前副校長から、附属桃山中学校の近況について、ご寄稿いただきました。VUCAと呼ばれる予測不能な時代において教育の重要性が増している中、附属桃山中学校の研究活動の様子や性教育、人権教育及び国際理解教育を始めとする多彩で豊かな学びについてご紹介しております。また、22期田村様より、2020年秋に新たに行われた、中学校と同窓会との連携事業「思い出アルバム」のパネル展示についてもご寄稿いただきました。また、同窓会寄稿から同窓会だよりにおいても、7期から17期の皆様からお言葉や便りを頂戴しております。ぜひ皆様の「おうち時間」のお供に、お楽しみいただければ幸いです。